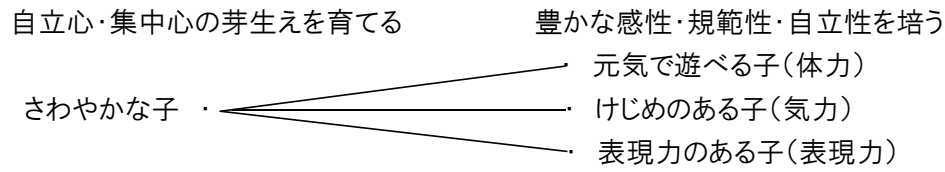


令和4年度 学校法人とくとう学園黒田幼稚園 学校評価

1. 本園の教育目標

(教育目標)



(学年目標)

- ・遊べる子(年少)
- ・夢中になれる子(年中)
- ・聞くことのできる子(年長)

(指導指針)

優しく、丁寧に、理を分け、可能な限り具体を通して納得のいく指導に努め、聞き入れる力・行動に移せる力を高める指導を進める。

(指導の重点)

- 望ましい環境構成に努め、園児の理想的な成長を促す
 - ・生涯学習理念で教育を進める
 - ・自立と共生、気力と体力の調和的発達を目指す
 - ・「一園一学級」を旨とする
 - ・小学校との連携を大切にする

(今後取り組むべき課題)

- ①ECEQの学びを活かした教育の質の向上を目指す。(コロナ禍における保育の充実)
- ②保護者とのコミュニケーションの充実。

2. 教師の自己評価とそれに対する学校関係者評価結果

評価基準/A:当てはまる B:どちらかと言えば当てはまる C:どちらかと言えば当てはまらない D:当てはまらない

(1) 保育の計画性

主な評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評価	取り組み状況	評価	ご意見・ご感想
指導計画は、園の方針を踏まえ、子どもの実態などを考慮して作成している。	B	子ども達の思いに寄り添いながら、どんな保育をしたら子ども達が主体的に活動に取り組めるのかを考え、計画するよう心掛けている。 本園の伝統ある指導計画を大事にしながらも、その時々の子どもの実態を踏まえて内容や指導にける時間を考慮している。	A	学年だよりで月の計画などが見えるので、今どのような保育をしているのかわかる。ごっこ遊びなどは子ども達の主体性を感じる。
子どもの記録を大切に、次の保育に生かしている。	B	『どのような声かけが良かったか』『どのタイミングで声を掛けたら良かったか』など、子どもの実態や一人ひとりの記録をとって保育に生かし級外・副担任と共有している。 活動・行事に対しての子どもの姿や成長を記録するほか、反省・改善点は全職員で共有し、園全体で保育の向上を図れるような体制が整っている。	A	記録など職員で共有することは素晴らしいが、それを親とも共有出来たらもっと嬉しい。親は子どもの園での成長も知りたいと思う。 良かった行動・悪かった行動どちらに対しても、子どもの個性に合わせ「このように声を掛けたらよかった」など、親にも共有してくれる。

(2) 保育の在り方 幼児の対応

子どもの健康と安全には、常に配慮している。	A	コロナ禍であるため、以前よりもずっと体調面に気を付けている。マスクをつけて表情が見えにくいため、意識して観察し少しの変化にも気づけるように気を付けている。 室内の環境設定を意識し、怪我や危険のないようにすると同時に、子ども達とも安全に生活するには、どのように過ごしたらいいか考える時間を度々作っている。	A	入園してすぐから、手の洗い方拭き方、うがいの仕方などが習慣付き、自分から進んでできるようになったこと、より丁寧にできるようになったことで、先生方が日々健康管理に細やかな配慮をしてくださっていることが本当によくわかり感謝している。
子どもが好きである。子どもに共感し、一人ひとりの良さを認めている。	A	こども達の高揚している時に見せるキラキラ光る瞳が大好きで、楽しい瞬間は同じ目線で感じ、共有できるようにしている。毎日かわいい子どもたちに囲まれて幸せ。嬉しいことも悲しいこともすべての気持ちを共感し、信頼関係を築いてきた。 子どもたちの持つ豊かな感性を感じ、個性や良さを認め褒め次への自信に繋げられるようにしている。	A	朝送迎する時、園長・副園長をはじめたくさんの先生方が元気に子どもを迎えてくれるので親としては毎日安心して預けることができる。大切に思っていることがよく伝わる。
個と集団を大切にされた保育を行っている。	B	集団の中でも、みんなで考える場と一対一で向き合う場を作り、場面に応じてその子にあった関わりをしている。 チームティーチングを導入し、自分では気づいていなかったことを共有することができた。集団と個のバランスを取りやすくなった。一対一では自分自身の成長、集団では友達の頑張りにも気づけるような言葉がけを意識している。	A	園で起きた問題に対して該当クラスの保護者以外に状況が正しく伝わらず不信感を抱いた。 チーム・ティーチングにより、集団が苦手な子どもにも手をかけることができサポートが上手く回っている。20人以上の子どもたちを見るのは大変だが、各クラスに副担がいることで個を大切にもらえる場面が増えた。

(3) 保育者としての質の向上のための努力・良識

幼稚園教諭としての指導の「引き出し」を多くしようと心がけている。	B	他学年・他クラスの連絡アプリで子どもの姿や保育の様子を見て、指導法や教材準備で参考にして自分の保育に取り入れた。 学年会議や、雑談の中で、後輩から出る新鮮なアイデアに学ぶことも多い。声かけや保育など真似て学んでいる。	A	
守秘義務を果たしている。	A	職員間で共有することはあるが、園外には持ち出さない。 公・私をはっきり分けて保育者としての守秘義務は守っている。	A	

(4)保護者への対応

園だより、クラスだよりなどを通して子どもの様子・教育内容を発信している。	B	クラスだよりや学年だよりを写真付きで載せることにより、文字では伝えきれない子どものワクワクした顔やかわいい姿を伝えることができている。夏祭りでは、踊りの動画も配信出来てよかった。 学年だよりでは月の保育計画をお知らせすることができている。写真写りには差が生じてしまうことがあるが、保護者の子どもの成長を喜べるような写真を選んで載せている。	A	クラスだより・学年だよりは楽しみの一つ。写真を見ながら家庭でも園の話ができる、よいツールの1つになっている。動画の配信はよりわかり易く、子どもと一緒に練習できていい時間が持てた。 毎回園だより・クラスだより、シールノートのコメントが楽しみ。先生のコメントから成長や頑張りを感ぜたり、写真からその時の雰囲気やリアルな姿を知る機会が多く、思い出にも残せるので嬉しい。
保護者とのコミュニケーションを大切にして、子どもの様子を共通理解している。	B	怪我・トラブルは必ず保護者に伝えるように努めた。少しの用件で保護者と話す時でも、子どもの今日の様子を伝えたりコミュニケーションを深められたりするように心掛けている。 月に一度、シールノートで子どもの様子を伝えることで、子どもの成長・頑張りを伝え共感できるように努力している。	A	子どもの頑張りを成長を電話や面談、シールノート、顔を合わせる時などに教えてくれて、園での様子が想像できてとても安心する。 些細な怪我でも丁寧に連絡をいただき逆に申し訳ない、さらにこの電話では子どもの様子をプラスで話して下さってありがたい。

(5)地域の自然・社会との関わり

地域の自然や施設・機関を保育に活用している。	B	感染対策をしながら昨年より確実に園外の施設にでかけられるようになり、子どもの楽しみの幅も広がった。 園外の人との関わりにはまだ敏感になってしまいが、少しづつ近隣の施設や公園の活用ができている。今後コロナが落ち着いたら、より積極的に利用し、子どもたちの学びの場を作りたい。	B	園でのプランター栽培や芋畑など自然とかかわることで子ども達も心が穏やかになりとても良い。 園外の施設に出かける機会も増え、浅間大社では参拝の仕方など子どもたちの知識の幅が広がって成長につながった。
------------------------	---	--	---	---

(6)研修への取り組み

年に一回以上は外部研修に参加し保育に役立っている。	A	夏休みの時期に改めてゆつくり自分の保育を見直せる研修に参加できて、毎年保育の引き出しが増えてきている。 自分が出席していない研修も、他の職員からの報告で、勉強になることがたくさんある。	A	
本園の研修主題に沿った保育を実践することにより、子どもを深く理解し、成果に繋げる努力をしている。	B	少しずつ子どもが主体的になる保育が出来ていると思う。「やりたい」だけを追求し過ぎると逸脱してしまふこともあるが、教育的意味をしっかりと考え、自分自身が幅広い知識を持って良い人的環境にならなくてはならないと思う。 感染状況の悪化により実施が難しかった保育も、学年で楽しめるレクリエーションや、遠足に代わる活動に代え行うことができた。黒田牧場は保護者からの反響もよかった。	B	私たちは自然のすべてのものと共存して生きているので、虫や生物・植物・食物について大人がもっと知って学びの場に来たい。

(7)園運営

子ども達が育つ園行事を企画し実施している。	A	どの行事も過程を大切に、本番では達成感を味わったり自信がつくような行事を行えるようにしている。特に発表会は向上心を持って練習に取り組んだり、友達と高めあったりする感動の姿がよく見え、一人ひとりの成長を強く感じることが出来る。 コロナでもできるように行事を計画して、子どもたちに多くのことを経験出来るようにしてきた。	A	運動会や発表会、大きな行事では子どもの成長を強く感じるが、日々の何気ない生活の中でも、子どもの気持ちを大切にもらったり、楽しく過ごすことができた。 精神的に安定し、気持ちを満たしてもらっていると感じる。
園の思いを伝える努力と保護者の希望をくみ取る努力をしている。	B	個人面談・希望面談・シールノートの一人一言・アンケートの実施など伝える努力と、くみ取る努力をしている。 手紙やアンケートから出た保護者の声に耳を傾け、受け止め、職員全員で理解し、一つ一つ丁寧に検討している。	A	様々な考え方や意見がある中、どんな内容のものも丁寧に受け止め、その上で園内でしっかり話し合いを重ね、ベストの判断をして説明を尽くしてくれる。 アンケートで保護者から園へ希望を伝える機会が持たれている。また子どもに関することも日々手紙や電話、面談にて共有できている。アンケートを見ると厳しい意見もあり、園の思いや努力を、もっと保護者にも知って欲しいと思った。一部の厳しい声に負けずに園の方針を示して欲しい。

3. 学校関係者評価委員からのその他のご意見・ご感想

<ul style="list-style-type: none"> 朝、子ども達の安全を見守りながら、園長・副園長の「○○ちゃんおはよう」「元気に来たね」「お誕生日おめでとう」・・・など子どもの顔を見ながら1人ひとりに声掛けしたり、会話をしている様子を見ながら子どもを送るが、朝から気持ちよく、嬉しく安心して預けられる。 一園一学級の黒田幼稚園にチーム・ティーチングが取り入れられたことに、更なる安心感が持てる。大きな集団生活ならではの経験や素晴らしさの中でも個々への対応がよりきめ細やかになったり、先生方の負担も分担できたりメリットがたくさんあるように感じる。 自己評価から、子ども達をこんなに愛情深く思ってくれていることがよくわかり嬉しかった。先生方は『子ども達にとって何が一番良いか』を考えて日々の園生活や行事を行っていることをいつも感じる。コロナ禍で多くのことが制限されたが、形を変えその時の精一杯をやってくれた。これからは黒田幼稚園の良さ(子どもの名前を全員の先生が呼べる・幼稚園の五つの約束など)伝統を大切に頑張りたい。 コロナ禍・保育業界でのニュースや事件があったが、日々大変な状況の中でも目の前の子どもたちに愛情を持って保育していただけてありがたい。 マスク越しの保育は大変だったと思う。様々な工夫をされていることに頭が下がる。 先生方がみんな『まずは子ども達が安全にかつ楽しく笑顔溢れる園生活を過ごしていくにはどうしたら良いか』と、あらゆる学習・行事において考えていることが伝わり"子ども達への愛情"を感じ、感謝です。 黒田幼稚園を卒園した子どもたちは礼儀、行儀がしっかり身につけている子が多く、就学してからも役立つ習慣が身につく教育をこれからも期待している。 今年度クラス内で起こった問題の公表と対応に不安と不信感を感じた。頑張っている先生の評価が下がるのは残念。 園の活動、父母との関わりなども素晴らしい園だと確信している。黒田幼稚園に通わせて良かった。
--

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組方法
ECEQの学びを活かした教育の質の向上を目指す。(コロナ禍で見直した園運営の充実を図る)	<ul style="list-style-type: none"> 子どもが主体的に学ぶことができる保育環境を設定する。 ICT教育の導入とT.Tを有効に使い保育の充実を図る。 園外活動の工夫と充実。
保護者とのコミュニケーションの充実	<ul style="list-style-type: none"> 個人面談・希望面談を有効に活用しコミュニケーションを図る。(面談・電話など丁寧に適切に行い信頼関係を築く) 年間を通じて保護者と話す機会を積極的に持つ。